



## 地域の子どもは、 地域で見守り育てよう

標記の見出しは、「平成二十年度青少年育成伯耆町民会議総会の決議文から抜粋しました。このテーマの発案者である加藤士朗さんと、町民会議の会長でもある住田町長に青少年への思いを対談していただきました。

**司会** 町民会議への思い入れが強いようですが、青少年をとりまく現状をどう見ておられますか。

**加藤** 私が自治会長をしていた四年前、その前後に全国で子どもの事件事故が多かったように思います。そんなおり、学校からの要請もあり、老人クラブ「伯友会」で子どもの見守りに関わったのをきっかけに、「みんなで育てる地域の子」という標語を思いつき、町民会議に取り上げていただきました。いざ事件事故がおきると、重大な内容になるので、町民の皆さんに是非、感心を持って欲しい。

**会長** 最近の青少年の環境をみていると、弱者である子どもが、



大人の都合で置き去りにされているような気がします。それは、社会の教育力が低下しているからではないでしょうか。

**司会** 青少年の育成活動に関わって、何かエピソードがありますか。

**加藤** 小学生から手紙をもらいました。「感謝しています」と。

**会長** 街頭指導、挨拶、声かけを続けていますと返事が返ってきます。私の孫が「加藤さんに声をかけられた。」とうれしそうに話してくれました。

**事務局** 現在、学校安全ボランティアに約四百人の方が登録されています。

**司会** 今後、どんな取り組みが必要だとお考えですか。

**加藤** 大人が関心をもてば、通学路の危険箇所、子供の変化に気づきます。結構私の言うことをよく聞いてくれますよ。もっと、青少年育成運動を広げたいです。

**会長** 伯耆町の将来を担ってくれる青少年の育成は、家庭が基本ですが、学校、町民、地域社会の連携が欠かせないと思います。

**事務局** 伯耆町には、家庭教育や親子の関係を点検していただける「体験活動」や、「ほうき星」等といったチャンネルやメニューがあります。

**司会** 本日はありがとうございました。

### 編集後記

十二月定例議会は住田町長の任期最後の議会となりました。合併に関わる諸問題、新町の一体感、財政再建、燃油高騰、深刻な経済不況など激動の四年間でした。

日本全体を覆う経済不況は、企業の撤退、操業短縮、解雇、自宅待機、内定取り消しなど職の根幹をゆるがす非常事態となり、私達の世代が経験したことのない経済恐慌の様相を呈してきました。

この厳しい時代をどう生き抜くか、次世代のために何をすべきか。「こんな時だからこそ議会の責務は大きい」

細田 栄

【編集】  
議会広報特別委員会  
委員長 大森 英一  
副委員長 遠藤 俊寛  
委員 幅田 千富美  
中田 壽國  
長谷川 盟  
細田 栄

「議会だより」に対するご意見をお待ちしております。

